

## 国際交流員ザブリーナ・リンのコラム

## ドイツの結婚式



先月の広報では、ドイツの結婚式前の習慣について書きましたが、今回はドイツの結婚式当日の習慣を紹介したいと思います。

## 花嫁が持つ4つの物

先日、初めて日本の結婚式に出席したとき、とても感動し、興奮しましたが、約2時間の披露宴で、新郎・新婦が忙しそうにしていたという印象が強かったです。とても素敵でしたが、新婦さんはお色直しのためにいない時が多かった気がします。

ドイツではお色直しをしません。家族や友達と賑やかに楽しい時間を過ごすのが最大の目的なので、ずっとお客さんと一緒に過ごします。ほとんどの人が、結婚式後のパーティーもウェディングドレスのままです。レンタルではないので時間の制限もありませんし、パーティーは夜中の3時とか5時まで続く場合も多いです。

ヨーロッパ全体の習慣ともいえるかもしれませんが、ドイツでは結婚式の際、花嫁は4つものを持った方がよいと言われています。

1 古い物・先祖を敬う謙虚な心、先祖からの富を表しています。



(母親、祖母から譲り受けたネックレスなど)  
2 新しいもの・これから始まる二人の生活を表しています。(新しい靴など)  
3 借りたもの・友人との良い関係、隣人愛を表しています。(ハンカチなど)  
4 青い物・忠実・信頼を象徴する色。花嫁の純潔を象徴する色とも言われています。(下着など、あまり目立たないところにさりげなく身につけるのが良い)  
あとは、現在はあまり見かけないかもしれませんが、花嫁がお金を集めて結婚式の靴を買うという習慣もありました。儉約のできる嫁になるようにという意味があります。

また、ドイツにおいては、教会で結婚するには、キリスト教徒でなければなりません。少なくとも結婚する夫婦のどちらかがキリスト教徒でなければなりません。

かがキリスト教徒でない場合は、教会の特別許可が必要になるようです。カトリックでは、結婚は重要な秘跡(サクラメント)とされていますので、役所に離婚届を提出したとしても、教会での離婚はできません。よって、教会での結婚式は人生の中で一度しかできないのです。  
※秘跡とは、キリスト教において、神の見えない恩寵を具体的に見える形で表すことです。(カトリックでは洗礼・堅信・聖体・ゆるし・病者の塗油・叙階・結婚という7つの秘跡を伝統的に認めてきました。)

## お姫様抱っこ

ドイツでは披露宴はありません。たまに朝、役所で婚姻届にサインをするときに、後で行う教会式には呼ばない人とコーヒーを飲みながらケーキを食べますが、パーティーには呼びたい人しか呼びません。パーティーのときにはゲームをしますが、仲の良い友達が事前に様々な準備をします。人気があるのは次の二つのゲームです。

一つは、夫婦が一緒に二人引きの鋸を持ち、協力して木の幹を切るゲームです。これからの生活を二人が平等・平和に過ごせますよという意味があります。もう一つはハート型にくりぬいたシートの中心を新郎が新婦をお姫様抱っこしながら通るものです。

ドイツでも新郎・新婦にお祝いと

してプレゼントする習慣があります。結婚式に呼ばれた友達がお金だけをあげるといのは冷たい態度として取られます。あと、日本では考えられないかもしれませんが、引き出物の習慣はありません。

また、結婚指輪はとても大事なものです。結婚したら指輪をずっとつけておくのが普通です。指輪をつけていないと浮気するイメージになってしまいます。  
ちなみに、ドイツでは同性婚がまだ認められていません。でも、パートナーシップ法、夫婦に準じる権利を同性カップルにも認める法律がありますので、近いうちに変わって欲しいと思います。

最後の一言・日本では、結婚しているか・していないかがすぐ話題になります。相手がいないとわかると、すぐに「相手を探しましょう」というような話題になってしまいます。日本だと一人は寂しい、かわいそう。ひどい場合には存在価値がないというような話にまで発展してしまうことがあります。いったいどうして？ドイツだと、結婚はしないで共同生活をするのも普通ですし、一人は寂しいというイメージもありません。昔は旦那さんがいないと生活が大変だったそうですが、私たちは21世紀に生きていて、女性も働きやすから、家庭内の役割分担も変わります。「おひとりさまの人生なんてつまらない」なんて考えは時代遅れかもしれませんよ！